

計画の策定作業における 現状整理の作業での活用

茨城県
水戸市 都市計画部 都市計画課

■ 居心地の良い歩きたくなる健康まちづくり計画

都市計画マスタープランの将来都市像



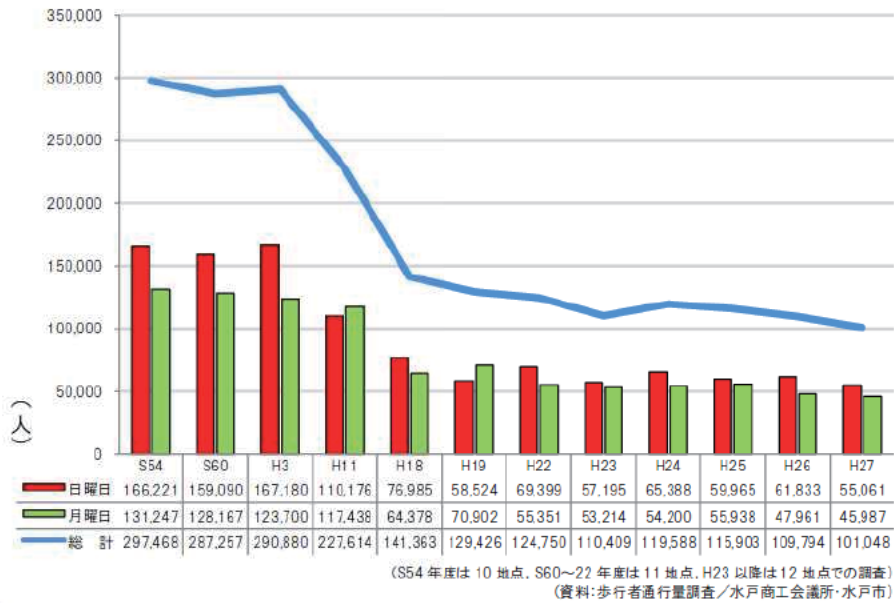
○都市計画マスタープラン 将来都市構造 都市核（中心市街地）
定住化の推進や歩いて暮らせる歩行環境の整備、市街地再開発事業による交流拠点づくりを総合的に展開しながら、魅力的な都市空間の形成

○立地適正化計画 施策
・歩きやすい街の構築
・健康まちづくり

→都市核における『居心地の良い歩きたくなる健康街づくり計画』を策定する

■ 計画策定に向けて現状の整理

図 27 中心市街地(都市中枢ゾーン)歩行者通行量の推移

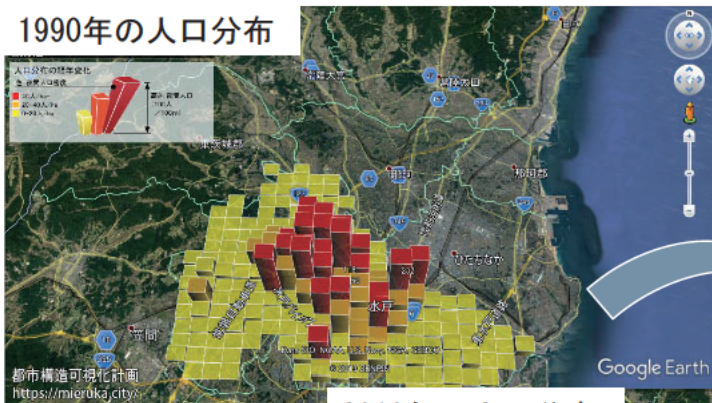


○都市核における歩行者の推移

1990年頃を境に急減し、2005年頃から緩やかな現象を続けている

■ 計画策定に向けて現状の把握

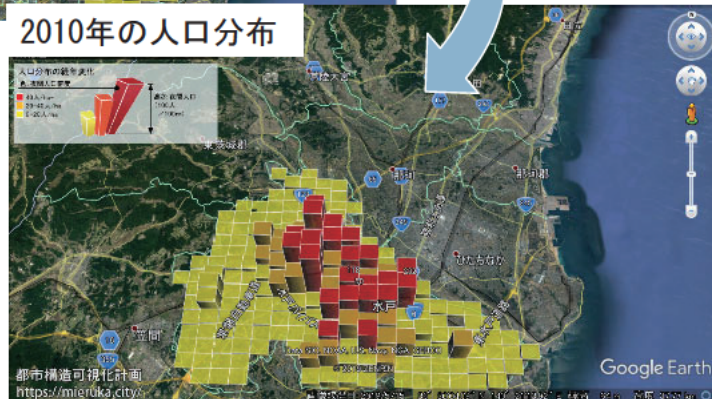
1990年の人口分布



○人口分布の推移

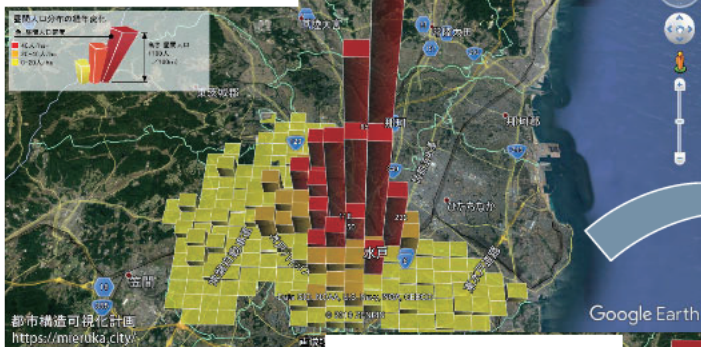
都市核の人口はやや減少し、郊外に移転しているものの都市核周辺に最も人口が集積している。

2010年の人口分布



■ 計画策定に向けて現状の把握

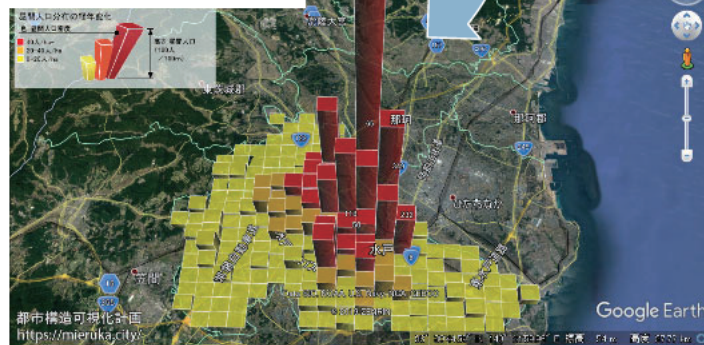
1990年の昼間人口



○ 昼間人口の推移

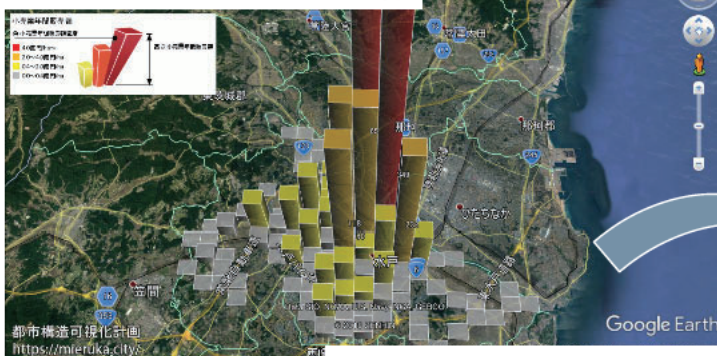
昼間人口は減少し、郊外の人口が増加しているものの、都市核の人口が多い

2005年の昼間人口



■ 計画策定に向けて現状の把握

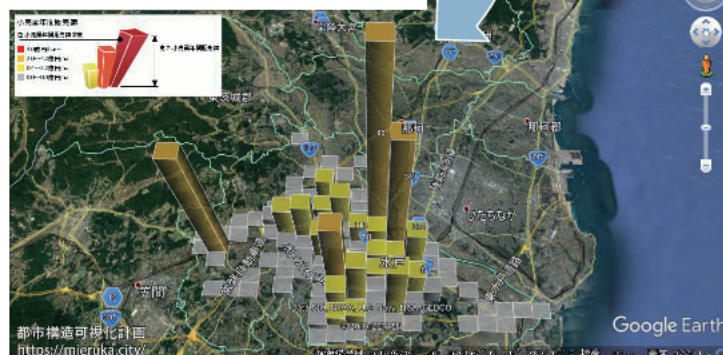
1991年の小売業年間販売額



○ 小売業年間販売額の推移

都市核において大幅に減少するとともに郊外の大型商業施設などの出現による、一部郊外部での売上増加。

2007年の小売業年間販売額

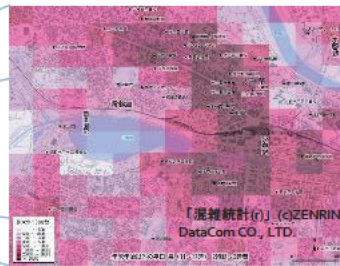
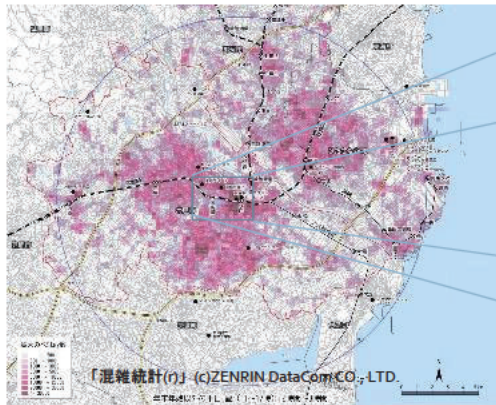


■ 現状把握を基にした追加の調査

○ 現状把握とそれを基にした計画の方向性と追加の調査

- 都市核における人口の減少や小売業の後退はあるものの、多くの人やサービスが集積する拠点としての機能を果たしている
- 人は減っているが、それ以上にまちなかを歩行者が回遊していない
- まちなかに車で来ても、ドアツードアで目的の場所に行き、そのまま帰ってしまうのではないか
- 人の集まる拠点周辺の道路の居心地を良くし、周辺へのにじみだしを狙う

可視化されることで容易にデータの大掴みができ、方向性を定める助けになる



- ・ 具体的にどこに人が集まり、どのような滞在をしているのか、携帯電話の位置情報による調査

現在も計画策定に向けたデータの分析作業中です

i-都市交流会議2020

7

茨城県 水戸市

都市の紹介

水戸市には、日本三名園のひとつ、偕楽園があります。偕楽園は四季それぞれ楽しむことができ、特に2月～3月は100種3000本の梅が咲き誇り、来園者を楽しませます。また、偕楽園の借景となっている千波湖周辺には広大な都市公園があります。観光で訪れた際は、是非、散策してみてください。



i-都市交流会議2020

8